

春岡村の伝説

アーバンまわりのカエルたち…

前回、春岡村の方言・訛言「オカマゲェーロとかエボゲェーロ」のガマガエルのことを書きましたが、アーバンのまわりにはほかにトウキョウダルマガエルやアマガエル、ウシガエルがいます。

え？トノサマガエルはいないの？と思った方も多いと思います。埼玉で私たちがトノサマガエルと呼んでいるカエルの本当の名前は「トウキョウダルマガエル」といいます。仙台平野から関東平野だけに生息しています。一方、本当の「トノサマガエル」は日本アルプスや奥羽山脈を境に仙台平野と関東平野以外の本州、四国、九州などに分布しています。姿がよく似ているので、見つけた地域が識別のヒントになります。

ウシガエルは食用ガエルとも呼ばれ、30年前アーバンに越してきた頃は「ヴォー、ヴォー」と低い声が遊水地で不気味に響き渡っていたように記憶しています。戦前、春野周辺でも農家の副業でウシガエルを養殖して、その肉を売るのが流行ったそうです。ところが、その皮をはぐ作業がつかなくて長続きせず、生け簀から逃げ出したウシガエルが深作沼で大繁殖したのです。また、アメリカザリガニはウシガエルのエサとして輸入されたのですが、これもまた逃げ出して、子どもたちが嬉々として釣ったり飼ったりしたのですが、田んぼの畦に穴を開ける迷惑ものでもあります。

ところで、カエルはどうやって水を飲むのでしょうか？口からも飲みますが、実はお腹の皮からも水を吸収するのだそうです。カエルのお腹の皮は柔らかくて水を通します。水のない畑などでもアマガエルがたくさんいますね。サトイモやオクラなどの葉の上で休んでいるのは、もしかするとお腹で水を飲んでいるところかもしれません。

東三番街 平山由喜

